

国立研究開発法人情報通信研究機構
令和3年度第1回契約監視委員会議事概要

1. 日時

令和3年6月7日（月）13:00～15:00

2. 場所

WebExによるオンライン開催

3. 出席者（委員（敬称略、五十音順））

手塚 悟	（慶應義塾大学・環境情報学部 教授）
土井 美和子	（情報通信研究機構 監事）
徳永 誠司	（情報通信研究機構 監事）
名越 秀夫	（インテックス法律特許事務所 弁護士・弁理士）
松田 修一	（委員長・早稲田大学 名誉教授）

4. 開会

情報通信研究機構井上理事より挨拶があった。

5. 議事

- (1)「令和2年度における契約の実績、点検及び調達等合理化計画に基づく取組み結果」
- (2)「令和3年度国立研究開発法人情報通信研究機構 調達等合理化計画(案)」

6. 議事概要

- (1)「令和2年度における契約の実績、点検及び調達等合理化計画に基づく取組み結果」について

情報通信研究機構（以下「機構」という。）からの説明に基づき、以下の項目について、その内容を点検及び確認した。

1. 令和2年度の契約実績（契約実績の傾向、競争性のない随意契約に関する調達、一者応札・応募の状況等）
2. 2ヵ年連続一者応札・応募案件のうち選定条件に基づき選定した37件の具体的な案件
3. 令和2年度調達等合理化計画に基づく取組結果

○ 委員からは、以下の意見、質問等があった。（ ）は機構側回答。

・ 2ヵ年連続一者応札・応募の案件37件について確認したところ、契約の内容が不審なものや一者応札・応募となった理由に説明が付かない案件はなく、また、一者応札・

応募の理由及び改善策についての契約担当の説明も、契約関係書類の内容と照らし合わせて、十分に理解できるものであった。

・2カ年連続一者応札できなかった理由についての聞き取りについて

(応札、応募に至らなかった社へアンケートの実施をお願いしている。なかなか回答はもらえず、回答があっても、その殆どが自社の都合や何らかの都合があって応募しなかったというような状況。)

・補正予算の執行に関し、応募側の受け止め方や対応状況について

(最新の技術を使わなくてはならない案件に関しては、技術を有しているところは手を挙げてくるが、技術のないところは挙げづらい状況があるようだ。)

(2)「令和3年度国立研究開発法人情報通信研究機構 調達等合理化計画(案)」について
機構からの説明に基づき、その内容について点検及び確認した。

○ 委員からは、以下の意見、質問等があった。()は機構側回答。

・随意契約の検証チームは、毎年編成されているのか。

(現在は、民間企業出身の専任職員、契約管理GL、契約室長の3名体制で点検を行っている。)

・検証チームのローテーションはどのように考えているのか。

(各グループ等に所属している若手の職員も順次加えつつ、引継ぎを行っている。)

・検収を遠隔地で行う場合、具体的な確認はどうしているのか。

(写真を撮って納品書との照合を行うという形を取っている。)

・押印の省略や業務の合理化について、機構内での規程の改善において、課題になりそうなこと、難しいことはあるか。

(業務改革ということで、現在、検討が進んでいる状態。業務フロー等の見直しについても進められている。)

・公正取引委員会の研修に108名が参加しているが、参加者は任意に選ばれたのか指名されたのか。

(WEBベースで中継された研修の映像を機構で録画して、職員全員がいつでも見られるように機構内HPへ掲載した。)

以 上